

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人吉田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	救急救命学科	夜・通信	285 時間	240 時間	
	臨床工学科	夜・通信	286 時間	240 時間	
	臨床検査学科	夜・通信	256 時間	240 時間	
	視能訓練学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	歯科衛生学科	夜・通信	330 時間	240 時間	
	歯科技工科	夜・通信	480 時間	160 時間	
	医療事務 クラーク学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/">https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人吉田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人吉田学園ホームページ <a href="https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/">https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)ほくていホールディングス取締役会長	自令和5年 4月14日 至令和7年 4月13日	経営企画及び管理
非常勤	サツドラホールディングス(株)代表取締役会長	自令和5年 4月14日 至令和7年 4月13日	経営企画及び管理
非常勤	(株)ムラタ代表取締役会長	自令和5年 4月14日 至令和7年 4月13日	経営企画及び管理
(備考) 黄色網掛け部分: 昨年のデータに記載無いが、HP 情報公開に掲載内容に			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人吉田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。</p> <p>授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/">https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。</p> <p>なお、当校ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学生指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起し、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など対策を講じている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/">https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/</a>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)  成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学瀬億第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達したものを卒業認定する。なお、認定方針は学則並びに「学習のしおり」に示し、公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。</p>	
<p>卒業の認定に関する  方針の公表方法</p>	<p><a href="https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/">https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人吉田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/">https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/">https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/</a>
財産目録	<a href="https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/">https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/</a>
事業報告書	<a href="https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/">https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/">https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/</a>

2. 教育活動に係る情報

①-1 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	救急救命学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,479 単位時間/単位	1,271 単位時間 /単位	38 単位時間 /単位	945 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	225 単位時間 /単位
		2,479 単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
300人		241人	0人	10人	25人	35人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。 授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) 成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。
学修支援等
(概要) 成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。 なお、投稿ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
75人 (100%)	0人 (0%)	60人 (80.0%)	15人 (20.0%)
(主な就職、業界等) 消防署、病院 他			
(就職指導内容) 公務員試験対策模擬試験(20回)、面接試験対策(模擬面接〔オンライン面談も含む〕の実施、集団討論等)、試験申込書記入サポート			
(主な学修成果(資格・検定等)) 救急救命士国家資格 72名受験、67名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
220人	6人	2.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 職業観の状況(ホームルームやグループワーク等での卒業後のあるべき姿の見える化)、学業サポート(補講の実施、試験対策授業の実施)、生活指導(個別面談を介して日常生活での不安解消)		

①-2 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	臨床工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,425 単位時間/単位	1,638 単位時間 /単位	271 単位時間 /単位	516 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			2,425 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		89人	0人	5人	42人	47人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。 授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。
学修支援等
(概要) 成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。 なお、投稿ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 (100%)	0 人 ( 0%)	24 人 ( 96.0%)	1 人 ( 4.0%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 就職に必要な資格試験（国家試験、ME2 種検定、ME1 種検定）の試験対策 面接指導、履歴書、令状作成指導、就職先選択に向けた講習会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 臨床工学技士国家資格 25 名受験、23 名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
98 人	12 人	12.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 基礎学力向上に向けた対策の徹底、定期試験合格に向けた対策の徹底		



① -3 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	臨床検査学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,850 単位時間/単位	1,348 単位時間 /単位	272 単位時間 /単位	1,230 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			2,850 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		108人	0人	6人	31人	37人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。</p> <p>授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。</p> <p>なお、投稿ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
44人 (100%)	0人 (0%)	34人 (77.3%)	10人 (22.7%)
(主な就職、業界等) 病院、健診センター、検査センター他			
(就職指導内容) 地元への就職を指導（臨床検査技師不足のため）			
(主な学修成果（資格・検定等）) 臨床検査技師国家資格 44名受験、37名合格			
(備考)（任意記載事項） 国家試験不合格者は、基本病院勤務が出来ないため就職はない。 1・2年生は新課程、3年生は旧課程			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
126人	11人	8.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業サポート(補講の実施、試験対策授業の実施)、職業観の醸成(卒業後のあるべき姿の見える化)、早めの個別面談と個人授業、保護者との連携の強化		

① -4 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	視能訓練学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,588 単位時間/単位	988 単位時間 /単位	285 単位時間 /単位	1,315 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			2,588 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150人		95人	0人	6人	49人	55人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。 授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。
学修支援等
(概要) 成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。 なお、投稿ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
44人 （100%）	0人 （0%）	43人 （97.7%）	1人 （2.3%）
（主な就職、業界等） 病院、眼科クリニック			
（就職指導内容） 履歴書指導、面接指導、自己分析			
（主な学修成果（資格・検定等）） 視能訓練士国家資格 44名受験、44名合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
119人	12人	10.1%
（中途退学の主な理由） 学業不振、進路変更、体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学習サポート（補講の実施、試験対策授業の実施）、職業観の醸成（卒業後のあるべき姿の見える化）、早めの個別面談と個人授業		

① -5 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	歯科衛生学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,957 単位時間/単位	1,341 単位時間 /単位	986 単位時間 /単位	630 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			2,957 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150人		115人	0人	5人	39人	44人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。</p> <p>授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。</p> <p>なお、投稿ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35人 (100%)	1人 ( 2.9%)	32人 ( 91.4%)	2人 ( 5.7%)
(主な就職、業界等) 歯科医院			
(就職指導内容) 資格(歯科衛生士)を取得し、資格を活かせる歯科医院、病院歯科などに就職を斡旋している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 歯科衛生士国家資格 33名受験、33名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
131人	20人	15.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業サポート(補講、補習の実施、試験対策授業の実施)、職業観の醸成(卒業後のあるべき姿の見える化)、早めの個別面談と個人授業		

① -6 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	歯科技工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,960 単位時間/単位	404 単位時間 /単位	46 単位時間 /単位	1,510 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1,960 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		16人	0人	3人	23人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。</p> <p>授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。</p> <p>なお、投稿ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位(概ね下位1/4)の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	0人 ( 0%)	3人 ( 100%)	0人 ( 0%)
(主な就職、業界等) 技工所			
(就職指導内容) 求人票の見方、履歴書の書き方、面接練習、礼儀・マナー、自己PRについて			
(主な学修成果（資格・検定等）) 歯科技工士国家資格 3名受験、3名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業サポート(補講、補習の実施、試験対策授業の実施)、職業観の醸成(卒業後のあるべき姿の見える化)、早めの個別面談と個人授業		



① -7 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門	医療事務クラーク学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,715～1,805 単位時間／単位	920～ 1,056 単位時間 ／単位	360 単位時間 ／単位	136～405 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	76～195 単位時間 ／単位
			1,715 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		23人	0人	3人	12人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年12月中旬から2月中旬にかけて、各科目の実施状況から授業内容や方法の見直しを図り、次年度の授業計画を作成している。</p> <p>授業計画は、定型様式を準備し、授業の方法や内容に加え、当該科目の到達目標、成績評価方法、基準を設け、シラバスとして科目ごとに作成し、学科別学年別にとりまとめ、授業計画の作成後、校長の確認決裁を受け、学生に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生に公表のシラバスに記載の成績評価方法、基準に基づき、科目別に成績の基準点となる評点を算定。学則第11条3項に則り、A～Dの4段階評価に置き換え、成績会議を経て、C以上の成績評価を受けたものを合格とし、当該科目の成績並びに履修を認定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>成績会議にて科目別の成績評価、単位認定を積み重ね、卒業学年最終の成績会議の際に卒業判定会議を兼ね、学則第9条に示した学科別に規定する時間数、単位数の履修状況を確認し、規定に達した者を卒業認定する。なお、認定方針は、学則並びに「学習のしおり」に示し公表している。また、認定方針の改定が必要な場合は、運営会議に諮り検討する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>成績評価の基準となる評点から、学生個々の習熟状況を把握するとともに、学科学年全体における成績状況の分布傾向を把握し、個々の学習指導、全体的な習熟状況から科目指導方法、内容の改善に役立てる。</p> <p>なお、投稿ではクラス担任制を採用しており、担任が成績を管理把握し、個々の学習指導、相談に応じている。また、特に成績評価下位（概ね下位1/4）の学生に対し、注意喚起、取り組み姿勢の改善や学力向上に向けた補習指導など、対策を講じている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	12人 (85.7%)	2人 (14.3%)
(主な就職、業界等) 病院、クリニック、調剤薬局 他			
(就職指導内容) 求人票の見方、履歴書の書き方、面接練習、礼儀・マナー、自己PRについて			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医療事務コンピュータ技能認定試験3級 14名受験、14名合格 医科医療事務技能審査試験 14名受験、14名合格 Excel表計算処理技能認定試験3級 14名受験、12名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業サポート(補講、補習の実施、試験対策授業の実施)、職業観の醸成(卒業後のあるべき姿の見える化)、早めの個別面談と個人授業		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
救急救命学科	200,000 円	800,000 円	220,000 円	入学検定料、教育充実費
臨床工学科	200,000 円	1,010,000 円	220,000 円	入学検定料、教育充実費
臨床検査学科	200,000 円	1,000,000 円	270,000 円	入学検定料、教育充実費
視能訓練学科	200,000 円	740,000 円	170,000 円	入学検定料、教育充実費
歯科衛生学科	200,000 円	630,000 円	170,000 円	入学検定料、教育充実費
歯科技工学科	200,000 円	950,000 円	270,000 円	入学検定料、教育充実費
医療事務 ク拉克学科	200,000 円	540,000 円	170,000 円	入学検定料、教育充実費
修学支援 (任意記載事項)				
日本学生支援機構給付奨学金予約採用候補者に前期授業料の納入を採用決定・支援区分確定まで猶予。入学金に関しては、入学前に納入、採用決定・支援区分確定により返金対応。				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/zitumu-zyugyou-iryoshika/">https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/iryoshika/zitumu-zyugyou-iryoshika/</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校が行った自己点検・評価の結果に基づき評価を行い、学校は当該委員会においての意見・評価を自己点検・評価の結果と共に真摯に受け止め、必要な改善に努めるとともに、学校運営や教育実践力等の向上を図ること		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
北海道大学大学院歯学研究院 教授	2022/4/1～2024/3/31	企業等委員
石狩北部地区消防事務組合 石狩消防署警防課	2022/4/1～2024/3/31	
札幌創成高等学校 校長	2022/4/1～2024/3/31	他校校長
札幌狸小路商店街振興組合 理事	2022/4/1～2024/3/31	地域関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/wp-disclosure/wp-content/uploads/2022/03/2022Igakkou.pdf">https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/wp-disclosure/wp-content/uploads/2022/03/2022Igakkou.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

### c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://yoshida-iryoshika.jp/">https://yoshida-iryoshika.jp/</a>
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H101310100316
学校名	吉田学園医療歯科専門学校
設置者名	学校法人 吉田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		142人	125人	146人
内 訳	第Ⅰ区分	81人	72人	
	第Ⅱ区分	36人	37人	
	第Ⅲ区分	25人	16人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				146人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
	0人		

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。